**（参考資料）　　＊患者様にご説明する際にご利用ください。**

**○体内金属の存在により、ＭＲI検査を施行すべきでない例**

1.　手術経験があり、明らかに金属（ＭＲI対応品を含む）があるが、金属の存在部位と検査部位が重複している場合

　　　⇒金属アーチファクトの影響により、良好な画像が提供できない可能性が高い

　　　　※ただし、依頼医の意向により施行する場合あり

　2.　2週間以内に内視鏡を施行した場合

　　　⇒クリップの残存の可能性あり

　　　（ただし、半年間残存した報告もあり）

　3.　8週間以内に冠動脈ステントの留置を行った場合

　　　⇒トルクにより離脱の可能性あり

　4.　ＥＤチューブ、イレウスチューブで、金属先導子のあるもの

　5.　心臓ペースメーカー、植込み型除細動器、人工内耳などの電子機器類

　6.　心臓人工弁を植込みしている方

　　　⇒機械式：1970年代の「Star-Edwer600番」以前のものは禁忌

　　　生体弁：シビアな撮像条件の下での検査実施は可能

　7.　脳動脈瘤クリップ

　　　⇒20年以上前の物品については禁忌

　8.　Ｖ-Ｐシャント造設患者

　　　⇒ＭＲ装置の磁場により設定バルブ圧に変動を生じる可能性がある

　　　⇒検査後の確認、再調整を要するが、当院では対応できない

　9.　磁石式入れ歯を使用している方

　　　⇒消磁し、使用できなくなる

　　　⇒本人の承諾の下、施行する場合もある

　　　　※ただし、画像への悪影響あり

　10.　股関節人工骨頭置換術後で、Metal On Metalが使用されている場合

　　　⇒微小金属粉が発熱する可能性あり

　11.　戦争経験のある方

　　　⇒銃弾等の体内残存の可能性あり

**○体内金属ではなくとも、ＭＲI検査を施行すべきでない例**

1.　妊娠初期（およそ12週目まで）

　　　⇒器官形成期の磁場による影響として、奇形発生の報告あり

　　　　安全側に考慮し、12週目までを禁忌とした方が良いか

　2.　刺青、アートメイクのある方

　　　⇒変色、火傷のおそれあり

　3.　30～40分程度、仰臥位を保持できない可能性のある方

　4.　閉所恐怖症の方

**○検査当日お願いしたいこと**

　1.　女性の方は薄目の化粧でお越しください

　2.　着替えの難しい方は、あらかじめ金属のない洋服でお越しください

医療法人博仁会　共済病院